

## 海上自衛隊練習艦隊のタンパ寄港

(2011年7月25～28日)

在マイアミ日本総領事  
川原 英一

7月25日から28日まで、海上自衛隊遠洋練習航海部隊(練習艦隊とも呼ばれます)がフロリダ州タンパに親善寄港しました。私も前日からタンパに出張し、様々な行事に参加してきました。タンパ在住の日本人の方々、ヒルズボロー郡やタンパ市が艦隊を暖かく迎え、フロリダ州と日本の強い絆を改めて感じました。

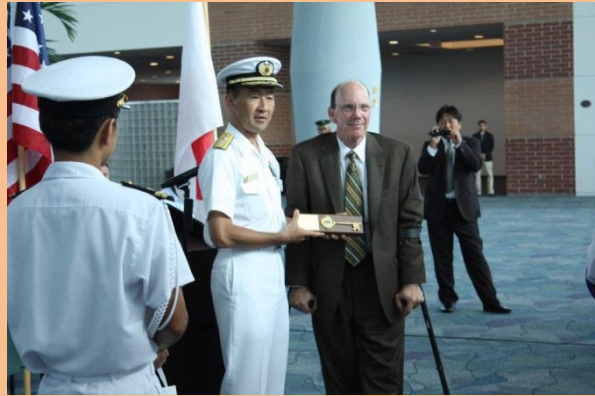
### 1. 練習艦隊のタンパ入港歓迎行事(25日09:30-10:30)

第3埠頭前のターミナルビル2階ホールにおいて、アル・ヒギンボサム・ヒルズボロー郡議長及びボブ・バックホーン・タンパ市長を始めとした約60名の地元関係者・メディアが見守る中、入港歓迎式典が行われ、練習艦隊の大塚司令官、各艦長、実習幹部約80名等が参加しました。



- (1) 両国の国歌斉唱に続いて、私から、練習艦隊のタンパ寄港を心から歓迎する、今次寄港は、東日本大震災後の日米の強固な関係を象徴するものとして大いに意義深いこと、タンパと日本との関係は100年以上前に遡ること、今回寄港の機会に、幹部実習生が地元の方々との交流・親善に励んで頂ければ有難い旨を述べました。
- (2) ヒルズボロー郡議長、次いでタンパ市長の歓迎挨拶がありました。同郡議長からは、「数ある寄港地の一つにタンパを選択してもらったことは大変名誉である。東日本大震災被災者に対しお見舞いを申し上げ、早期復興を祈る。」、また、同市長からは、「自分の気持ちと心は、被災民と共にある。」との心温まる発言がありました。

(3)大塚司令官より、3.11後の米国をはじめとする国際支援への感謝、被災地の東北は復旧・復興を必要としているが、日本全体が被害を受けたわけではなく、練習艦隊士官達は意気軒昂であること、国際貢献活動は、今後も引き続き行っていきたいとの力強いメッセージを発言。また、2002年にタンパの米中央軍司令部との連絡官として勤務した経験があり、数ある寄港地の中で、タンパを再度訪問することができて非常に嬉しいとの発言が同司令官からありました。



(4)式典終了後、「ヒ」郡議長及び「バ」市長との間で贈呈品交換があり、郡議長、市長並びにタンパ港湾局関係者に対して練習艦隊司令官盾が贈呈されました。

また、大塚司令官と私に対するビデオ・インタビューがあり、練習艦隊の寄港・歓迎式典の様子について、27日当日午後及び翌日に地元タンパのテレビ局で数回にわたり放映されました。

## 2. 栄誉礼

歓迎式典終了後に、練習艦隊旗艦のかしま艦上で、栄誉礼をしていただきました。



## 3. 総領事講話(7月25日11:00-11:45)

練習艦「かしま」実習生講堂において、大塚司令官を始めとした練習艦隊幹部参加の下、私は、実習幹部約170名に対して、経済連携協定・日本ブランドの輸出、フロリダ州の経済、タンパと日本海軍との関係、東日本大震災へのフロリダの反応、メディアとインターネットを利用した情報発信の重要性、自衛隊の国際貢献活動のPR等について講話を行いました。講話後、実習幹部から、TPPと日本の今後の課題、米国における外国人受け入れ事情について積極的な質問がありました。



## 4. 大塚司令官主催昼食会(艦上)

地元郡・市自治体代表、港湾当局、米中央軍司令本部副司令官及び一部各国コアリション(Coalition)連絡官(将官クラス)を前に、大塚司令官より、練習艦隊の目的は、米国への感謝の意を表明すること、日本は被災地を除き元気であること、日米交



流親善にお役に立ちたい、震災後も国際貢献に今後も寄与し続けたいとの趣旨を発言して、出席者から大きな拍手を浴びました。

タンパ駐在のCoalition軍連絡官(将軍クラス)も参加する中、米中央軍作戦部長ドネガン少将は、私の質問に答えて、「米国市民の軍人に対する良好な市民関係、海外で従事する米軍人・米軍組織への市民の信頼・尊崇の気持ちが強くみられる、9.11以降志願兵の海外派遣が増大し、市民の身近な人間がより多く活躍するようになり、良好な市民感情が強まったのではないかと発言。他方、豪軍海将(連絡官)からは、アフガンなど世界に展開する豪州軍は、不幸な事件が起こるたびに、国内で派遣の是非を問う声があり、市民感情と理解は、米国の比ではないと述べていました。

## 5. セントピーターズバーグ市長表敬

大塚司令官から、以前に同市から米中央軍司令本部に通っていたので、第2、第3の故郷に戻った気持ちであること、今回練習艦隊の3隻、総乗員数725名であり、そのうち幹部候補生学校を出た実習生は約180名であること、寄港の3つの使命を説明しました。さらに、東日本大震災直後の被災地の写真及び米軍による支援(「友達作戦」)の状況を示す過去写真を持参して説明。フォスター市長からは、被災地の被害の大きさに驚きの声があがりました。同市長より、同市の姉妹都市である高松市の市長が10月に同市を訪問すること、自分(市長)は11月に高松市など1週間程度訪問予定である、その後、地元プロ野球チームで活躍した日本選手などの話もありました。

### ◎寄港地事情講話(25日13:15-13:45)

練習艦「かしま」実習生講堂において、在マイアミ総領事館の領事及び当地旅行代理店代表者より、実習幹部約120名に対して、タンパ事情講話を行いました。タンパの治安状況について、パワーポイントを用いつつ日本とフロリダやタンパの犯罪発生件数を比較しながら説明を行ったところ、実習幹部は皆熱心に聞き入っていました。

## 6. 艦上レセプション(25日18:30-20:00)

練習艦「かしま」及び「あさぎり」の艦上において、大塚司令官と私の共催による艦上レセプションを開催しました。タンパ市近郊を中心としてフロリダ州各地から300名を超えるゲストが参加してくださいました。

大塚司令官と私が挨拶を行い、続いて、ヒギンボサム・ヒルズボロー郡議長、ドネガン少将、大塚司令官とともに鏡割りをしまし





た。

約2時間にわたって開催された本レセプションにおいては、終始音楽隊による生演奏があり、参加した実習幹部による「すき焼きソング（坂本九）」などの合唱が行われる等、和やかな雰囲気のもと、練習艦隊幹部や実習幹部とゲストとの交流が大変活発に行われました。

#### ◎艦艇一般公開(26日及び27日13:30-15:30)

練習艦「あさぎり」の一般公開が行われ、両日併せて計約2600名(26日:約1100名、27日:約1500名)の参加がありました。なお、一般公開の来場記念として練習艦隊ポスターが無料配布され(コニカ・ミノルタ社提供)、好評を博していました。



#### 7. タンパ市長表敬

26日午後、タンパ市長を大塚司令官とともに表敬しました。市長は軍務経験者であり、マックディール基地の存続の危機に際しては、常駐基地としての存続に大いに尽力し、軍関係者からの信頼も厚いことが表敬の際に話題になりました。

大塚司令官から同市長に対して横須賀市長からの親書が手交されました。



#### ■高松市高校生と実習幹部との交流・ダリ美術館訪問(26日14:00-15:30)



練習艦隊実習幹部が史跡等研修のため香川県高松市と姉妹都市関係にあるセントピーターズバーグ市(タンパ市の南西に位置;車で30分程度)を訪問する機会を捉え、当館アレンジにより、7月21日~8月2日の日程で「セ」市を訪問している高松市の女子高校生4名と実習幹部10名とがともに同市所在のダリ美術館を訪問

しました。

まず、日本人ガイドの案内でダリ絵画を鑑賞し、参加者全員で記念撮影を行った後、

実習幹部から高校生にこれまでの寄港地の模様について写真を見せながら説明し、高校生からは海上自衛隊での生活の様子について質問が行われる等、交流が行われました。

#### ■地元大学とのスポーツ交歓(26日17:30ー)

南フロリダ大学(USF)において、実習幹部12名(剣道:8名、合気道:4名)とUSFのジャパンプラブを中心とした学生との間で剣道と合気道のスポーツ交歓が行われました。

#### ■ホストファミリープログラム(26日ー27日)

タンパ市観光局の呼び掛けにより応募のあったホストファミリー計34家族によるホストファミリープログラムが行われ、実習幹部59名が参加しました。26日夜から27日の昼までにかけて、各実習幹部はそれぞれのホストファミリーが計画したプログラムに沿って米国一般家庭との交流を行いました。

#### 8. 地元歓迎レセプション(26日18:30ー20:00)

タンパ市コンベンション・センターにおいて、ヒルズボロー郡及びタンパ市の共催による歓迎レセプションが開催され、大塚司令官、各艦長、実習生50名を含む約200名が参加しました。地元経済界人、在留邦人も招待されました。当館からは私、中村領事、パットン職員らが参加。また、当館のアレンジにより、セントピーターズパーク市を訪問している高松市高校生4名も、ホストファミリーとともに参加しました。海上自衛隊音楽隊による太鼓演奏やミス・タンパによる歌の披露等が行われる中、実習幹部も地元参加者との交流を活発に行いました。



#### 9. 慰霊碑献花式



7月27日午前9時からマックディール基地内にある慰霊碑前において、米側よりハワード米軍副司令官他、大塚司令官、幹部実習生、マイアミ総領事館からは私が参加しました。海自練習艦隊音楽隊による両国国家演奏の後、慰霊碑に献花を行いました。

#### ■タンパ大学・プラント美術館訪問(27日10:00ー11:00)

私が日本海軍ゆかりの地として訪問を予定していたヘンリー・プラント美術館へは、当初、大塚司令官の参加予定はなかったのですが、急遽参加することとなりました。



1898年に勃発した米西戦争当時、当地タンパに派遣されたワシントン駐在の秋山真之・大日本帝国海軍少佐(最終階級は中将)が宿泊したタンパ・ベイホテルの建物が、現在は美術館・タンパ大学施設として利用されています。当時の秋山少佐に関する英字新聞記事・文献写真を

同美術館で所蔵しており、今次大塚司令官の訪問に合わせて、ゆかりの所蔵品を倉庫から搬出し、館長が詳細な説明をしてくれました。大塚司令官は興味深く聞き入り、記念撮影後、美術館関係者に対して練習艦隊記念メダルが贈呈されました。

#### 10. ネイビーリーグ主催昼食会(27日12:00-13:30)

タンパ市内ホテルにおいて、大塚司令官がゲストスピーカーとして招聘されたネイビーリーグ(退役軍事による支援組織)主催の昼食会が開催され、ネイビーリーグからは約50名の参加者がありました。会場では司令官による講話のほか、司令官とともに参加した音楽隊による演奏が行われ、大盛況だったそうです。

#### ■本官主催昼食会(27日12時~13時45分)



タンパ市内ホテルに今回の練習艦隊受け入れに御尽力された地元自治体関係者・タンパ港湾当局、マックディール空軍基地副司令官、在留邦人代表及び、長野市と姉妹都市のクリアウォーター市長などを招き、冒頭、私から深甚なる感謝の意を表明するスピーチを行いました。

#### 11. 練習艦隊のタンパ出港7月28日09:00-

ヒルズボロー郡及びタンパ市関係者による見送りが行われ、次寄港地ノーフォークに向けて無事出発しました。

出発に先立ち、練習艦隊の寄港期間中に当地シー・カデット(日本の海洋少年団と同様の団体)が歓迎レセプションや街頭で実施した東北大震災の被災者に向けた義援金募金





活動の結果が練習艦「かしま」艦内において報告され、同活動により集まった義援金額を記載した模造小切手プレートが、募金活動に参加したシー・カデット6名から大塚司令官に対して贈呈されました（募金自体は米国赤十字を通じて日本に送金されます）。大塚司令官より善意溢れる活動に対する謝意表明がありました。

(了)